

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2023 Supported by BRIDGESTONE 第5戦 もてぎスーパー耐久 5Hours Race



2023年9月2日(土)～9月3日(日)
モビリティリゾートもてぎ(栃木県)
入場者数: 9月2日 2,000人
9月3日 3,700人

今季初完走が初優勝に！
チームのたゆまぬ努力が結実

FREE PRACTICE

今季、第2戦以降鮮烈なスピードをみせながら、第1戦からことごとくトラブルに泣かされ、レースを失ってしまっているKTMS。迎えた第5戦の舞台は、栃木県のモビリティリゾートもてぎ。2022年のレースではトラブルも起きている一戦で、KTMSはより一層のトラブル防止を意識しつつ、捲土重来を目指しレースウィークを迎えた。

この週末は8月31日(木)に3時間行われた特別スポーツ走行から幕を開けたが、走り出してから気温は35度以上。ドライバーはクールスーツを着用し、チームのメンバーも大粒の汗をかきながら走行を重ねていった。ただ、昨年のもてぎではガス欠のような症状がみられ

トラブルに繋がっていたが、この週末も同様の症状がみられた。

明けた9月1日(金)は、午前9時30分から専有走行1回目スタートした。この日も酷暑のなかで迎えることになったが、KTMS GR YARISは奥本隼士からコースインし、荒川麟、一條拳吾と交代しながら周回。全クラス混走の午後は荒川、奥本、一條と交代し、最後は奥住慈英がドライブ。午前は奥本が記録した2分09秒546、午後は荒川の2分09秒407というタイムで、いずれもST-2クラスのトップタイムとなった。

これまでのシーズン同様、ポテンシャルは十分。スピードはしっかりとある。ただ、やはり



この日も燃料残量がしっかりとあるにも関わらず、警告灯が点く症状が頻発する。

チームはトラブルの原因特定を目指し、土曜の予選日を前にしっかりと対策を施すべく深夜まで作業を行っていた。

9月1日 スーパー耐久 専有走行 Gr.2 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	225	KTMS GR YARIS	2'09.546
2	13	ENDLESS GR YARIS	2'09.857
3	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ10	2'10.502
4	7	新菱オート DIXCEL エボ10	2'12.730
5	743	Honda R & D Challenge FL5	2'16.734

9月1日 スーパー耐久 専有走行 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	225	KTMS GR YARIS	2'09.407
2	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ10	2'10.757
3	7	新菱オート DIXCEL エボ10	2'11.491
4	743	Honda R & D Challenge FL5	2'12.012
5	13	ENDLESS GR YARIS	2'12.924

QUALIFY

専有走行からガス欠症状に悩まされてきたKTMS GR YARIS だが、金曜夜に深夜まで作業を行い、解決策を探っていたものの、同様の症状はライバルの#13 GR YARIS など、他車も悩まされており、この暑さやもてぎに由来するものではないかということも予想された。

午前のウォームアップ走行を経て迎えた公式予選では、まずはAドライバー予選を一條拳吾が担当。2分09秒638というタイムを記録

するが、今回の予選でもランサー勢が速い。一條は僅差の3番手につけた。Bドライバー予選でも荒川が2分08秒486を記録し2番手につけ、合算では2番手に。ポール獲得とは成らなかったが、好位置につけることができた。

Cドライバー予選では奥住が、Dドライバー予選では奥本が決勝に向けた準備を進め予選を締めくくることができたが、燃料の不安は残ったままKTMSは決勝日を迎えることになった。



9月2日 公式予選 A+B予選 ST-2 正式結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ 10	4'14.838
2	7	新菱オート DIXCEL エボ 10	4'18.124
3	225	KTMS GR YARIS	4'18.220
4	13	ENDLESS GR YARIS	4'18.837
DNQ	743	Honda R & D Challenge FL5	4'38.331

9月2日 公式予選 Cドライバー予選 ST-2 正式結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	7	新菱オート DIXCEL エボ 10	2'10.117
2	225	KTMS GR YARIS	2'10.408
3	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ 10	2'10.568
4	13	ENDLESS GR YARIS	2'13.737
	743	Honda R & D Challenge FL5	No Time

9月2日 公式予選 Dドライバー予選 ST-2 正式結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	7	新菱オート DIXCEL エボ 10	2'10.379
2	225	KTMS GR YARIS	2'11.690
3	13	ENDLESS GR YARIS	2'13.123

RACE



迎えた9月3日(日)のモビリティリゾートもてぎは、朝こそやや雲があったが、次第に晴れ間が広がり、気温33度/路面温度42度と酷暑のなかでの決勝日となった。

KTMSは専有走行から予選まで、ずっと原因不明の燃料系のトラブルに悩まされていたが、何よりの朗報とも言えるのが、決勝日を前にこの原因が分かったことだ。チーム全員の努力が実った結果となった。

とはいえ、今季頻発している他のトラブルがいつ出るかも分からない。この日も暑さが厳しく、車体のどこに影響を及ぼすかも分からない。またドライバーにすら暑さの影響が出る可能性すらあった。

そんな一戦のスタートドライバーを務めたのは一條。まずはスタート直後、Aドライバーハンデをすぐに消化していく。同様にハンデが必要となった#13 GR YARISも同様の戦略をこなしており、KTMSは途中ST-X車両のストッ

プによるフルコースイエローなどもしっかりと対応しながら、2分12~13秒台の安定したペースで追いつけを続けた。一方で、この週末トラブルに悩まされた#743 CIVICがレースでも苦戦。また序盤トップ2を占めたランサー勢も、#6 ランサーがトラブルに見舞われるなどライバルは苦しい展開となっていた。

しかしKTMS GR YARISは33周を終え一條がファーストスティントをこなすと、奥住に交代。こちらも2分11~13秒台での走行を続けていく。チームは今回完走を第一目標とし、しっかりと安全マージンをとり燃費も大事にしたが、ドライバーたちもトラブルを未然に防ぐべく、余裕もった走りをしていった。

このレースは暑さによるトラブル等は多かったが、幸い大きなアクシデントは起きず、中盤まで一度もセーフティカーランがないままレースが展開されていった。奥住は68周まで走り荒川に交代するが、この頃には素早いピットワークもあり、#7 ランサー、#13 GR YARISに対してのリードは確実なものとなっていく。

荒川は102周目まで走り切り、アンカーを奥本に託した。今季、まだ富士24時間以外ではしっかりとレースを戦うことができていなかった奥本だが、直後にST-Zクラスの車両火災によって導入されたフルコースイエローにも冷静に対処。チェッカーまでの1時間強を燃費、

そしてKTMS GR YARISのコンディションに気をつけながら周回を重ねていった。

残暑の日差しが注ぐなか、KTMS GR YARISは午後4時16分、長い5時間レースをノートラブルで走り切り、チェッカーを受けた。若き奥本にとっては、初めてのスーパー耐久でのチェッカーが優勝のチェッカーフラッグとなった。ようやくつかんだ今季初優勝。これまで約半年、苦労し続けたチームは喜びとともに安堵の表情をみせた。

トラブルさえなければ、Aドライバーハンデもなんのその。KTMSが2022年チャンピオンにふさわしい戦いぶりをみせることができた。惜しむらくは、第6戦の岡山国際サーキットはST-2クラス自体の開催がないことだ。勢いを繋げるべく臨む第7戦は、11月の富士スピードウェイでのレースとなる。約2ヶ月間、チームは勝利の喜びとともに、シーズンを良いかたちで終えるべく力を蓄えていく。



DRIVER'S & ENGINEER VOICE



一條 拳吾 KENGO ICHIJO

やっと勝てました！ 長かったです。こんなに勝つのが難しいのか……と痛感したシーズンでした。耐久レースならではの難しさもありますし、今回の優勝は別格の嬉しさですね。この週末もいろいろなトラブルがあるなかで、この4日間でチームの皆さんの頑張りが繋がってこうして結果が出たことが本当に嬉しいです。この結果でチームの士気も上がったと思いますし、勢いもついたのでないかと思っています。次の参戦は富士スピードウェイでの最終戦ですが、いまいちど気を引き締めて、最後は良いかたちで締めくりたいと思っています。



荒川 麟 RIN ARAKAWA

レース中にもクルマはすごく良い状態で、僕のスティントでもかなりペースを落として走ったつもりでしたが、それでもクルマが良すぎて速さが出ていたような状態でしたね。余裕はもって走ってはいましたが、最後までずっとヒヤヒヤしながら走っていましたね。今シーズンはスーパー耐久でもずっと勝てませんでしたし、僕自身も他のカテゴリーで勝てていないので、自身にとっても今季初優勝を飾ることができました。最終戦の富士も何事もなく完走して、結果的に優勝を飾ることができればと思っています。今年いちばんの走りをできるように僕自身も頑張りたいです。



奥住 慈英 JIEI OKUZUMI

本来の位置に戻ってきたな、という感じですね。スピードもあってチーム力もあるなかで、なぜか一年間ずっとトラブルがつきまわって来ましたが、とりあえず完走できたら結果は優勝だったので、チームの士気にも繋がる優勝だったのではないのでしょうか。次に繋がる、大事な1勝だと感じています。自分のスティントでは、燃費とクルマの安全を意識しながら走っていましたが、想像よりゆっくりだったので少し不安もありました。次の参戦はもう最終戦の富士ですが、24時間のときはトラブルもありましたし、ドライバーはしっかりと仕事をして勝ちたいと思っています。



奥本 隼士 Shunji Okumoto

スーパー耐久での初優勝で、しかもチェッカードライバーを任せていただいたので、メチャクチャ嬉しかったです。富士24時間をのぞけば1スティントを走りきれたことも初めてでしたね。みんながいろいろと教えてくれたなかで、不安なく走り切ることができたので良かったです。レース中は燃費走行というのをあまりやることがなくて、試しながら走ったら思いのほか遅かったのでチームをヒヤリとさせてしまいましたが、今後やるべきことを今日たくさん経験できました。今季すごく良いチームで走らせていただいているので、最後は良い結果で終わりたいです。



神戸トヨペット エンジニア 上田 昌宏 Masahiro Ueda

シンプルに良かったです。ホッとしています。初日は問題はありませんでしたが、走行2日目からはトラブルもありました。メカニックが遅くまで頑張ってくれましたし、結果的に解決することができて本当に良かったですね。その結果がこうして優勝というかたちに結びついたのでと思っています。ドライバー、メカニックみんなに感謝したいと思います。次戦は富士スピードウェイでの最終戦となりますが、ぜひ期待していただきたいと思ひますし、みんなでやれるだけのことをやって、気持ち良く終わりたいですね。

7月30日 スーパー耐久 第4戦オートボリス 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Total Time	Gap
1	225	KTMS GR YARIS	131	5:03'56.005	
2	7	新菱オート DIXCEL エボ10	130	5:02'14.983	1Lap
3	13	ENDLESS GR YARIS	130	5:03'33.191	1Lap
4	743	Honda R & D Challenge FL5	119	5:02'09.592	12Laps
5	6	新菱オート DIXCEL 夢住まい館エボ10	109	5:02'03.115	22Laps